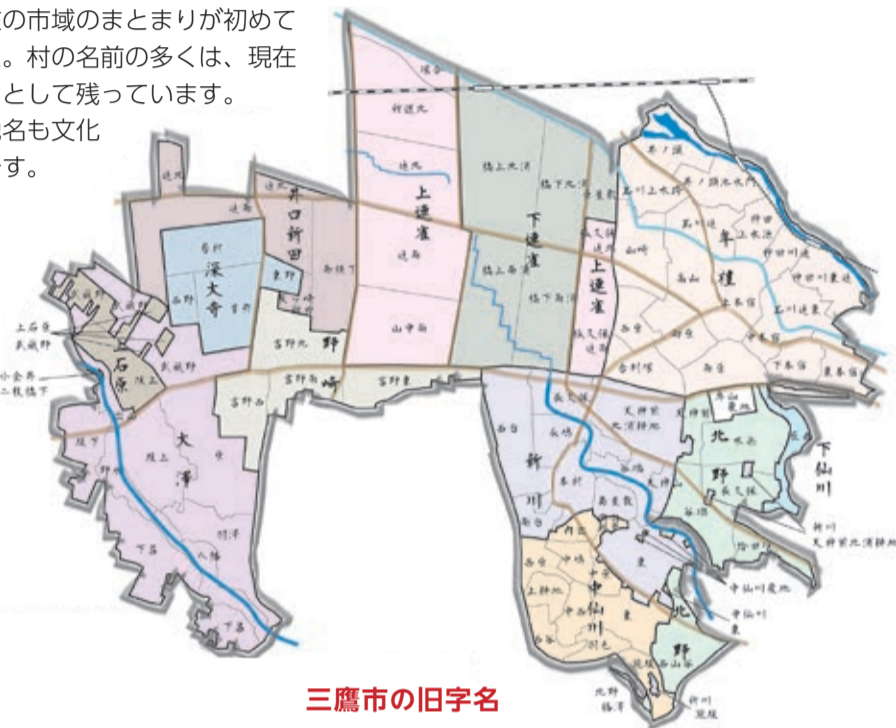


# 市史のテーマを

## 地名の由来

### 町名(大字)として今に伝わるかつての村

江戸時代には11の村があり、明治7(1874)年には野川村と上仙川村が合併、現在の地名につながる新川村が誕生しました。その後、明治22(1889)年に、10の村が合併して三鷹村が誕生し、現在の市域のまとまりが初めて成立しました。村の名前の多くは、現在の町名(大字)として残っています。このような地名も文化遺産の一つです。



### 交差点やバス停などに残る古い地名(小字)

大字よりさらに小さい地名は小字と呼ばれます。今ではほとんど使われていない名称も多いものの、それぞれ由来があり、それらを調べると、今では見えにくくなった土地の歴史や役割が分かります。

井の頭は昭和40(1965)年に牟礼から独立した地区ですが、それ以前にも小字として存在しました。徳川家光が鷹狩りに訪れた際、井の頭池の湧き水のおいしさを絶賛し、「井戸の中で一番」という意味で、命名したといわれています。

現在、交通量の多い吉祥寺通りと連雀通りの交差点に名が残る「狐久保」は、江戸時代からある小字です。当時は人家から離れた地域で、キツネが出没するような場所だったことからその名がついたと伝えられています。



『三鷹の民俗』1~11 11の字(あざ)ごとの生活や行事をまとめたシリーズ本です。

『三鷹市史』 これまでに、市制施行20周年の昭和45(1970)年と、50周年の平成12~13(2000~2001)年の2回刊行されています。※在庫がある巻は市政資料室(市役所2階)で閲覧・購入できます。市立図書館でも所蔵しています。

図書館の内容について=生涯学習課☎0422-29-9862、書籍の購入について=相談・情報課☎0422-44-6600

## 商店街の歴史

三鷹駅前の商店街は、昭和5(1930)年の三鷹駅開通を機に発展しました。太宰治の妻・津島美知子は「満州開拓地に住んでいる感じだった」と回想しています。昭和初期に三鷹に相次いで建てられた軍需工場で働く労働者のために、飲食店などが三鷹駅南口付近に急増しました。

戦後の混乱期を経て、昭和25(1950)年ごろから金融機関などが続々と進出し、駅前には発展期を迎えます。昭和29(1954)年にはアーチ型ネオンが完成し、昭和38(1963)年には三鷹初のショッピングセンター「三鷹センタービル」が誕生。昭和40~50年代にかけては、中央線沿線有数のにぎわいを誇る商店街となりました。当時から続く老舗の商店が今でも数軒残っています。



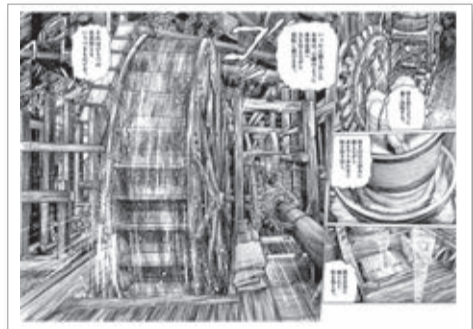
『三鷹駅前60年史』  
『三鷹中央通り商店会40周年記念誌』  
いずれも市立図書館で所蔵しています。



## 三鷹が登場する作品

### 『そばもん ニッポン蕎麦行脚』山本おさむ

そば打ちの道具を車に積んで全国を旅する主人公・矢代稜がそば切りのルーツを探る旅の中で、「実際に稼働する動力水車を東京で見たことがある」と、大沢の里水車・経営農家のしんぐるまを紹介しています。



### 『東京都三多摩原人』久住昌之

三鷹生まれ・三鷹育ちで、人気漫画『孤独のグルメ』の原作者としても知られる久住昌之さんが、思い出話を交えて多摩地域をまち歩きする自伝的エッセーです。

### 『菜と紙魚子』諸星大二郎

1995年から連載が始まった『菜と紙魚子』の舞台は、作者が居住する井の頭がモデルで、作中には井の頭周辺とおぼしき風景が登場します。



### 市立図書館HP

上記の本とは別に「三鷹が舞台になった本」を集めて紹介しています。どの本も図書館で借りて読むことができます。

### 三鷹フィルムコミッションHP

三鷹でロケを行った、映画やドラマなどの作品を紹介しています。

